

編集委員長からのご挨拶

RMB (Reproductive Medicine and Biology) 誌は、初めてインパクトファクターを獲得し 5 年が経過しました。この間、インパクトファクターは堅調に推移し、最新のデータでは 3.3 となっています。この値は産婦人科分野の JCR 収載全 140 ジャーナル中 19 位であり、Q1 にランクされるものです。さらに上を目指し、アメリカの Fertility & Sterility、ヨーロッパの Human Reproduction と比肩できるアジアの Reproductive Medicine and Biology の位置を目指して参ります。

RMB 誌は、2002 年に日本生殖医学会、日本受精着床学会、日本アンドロロジー学会のオフィシャル・ジャーナルとして発刊されました。2020 年には日本卵子学会も加わりました。投稿論文数は右肩上がりに増加し、現在年に 60 編以上の質の高い Invited Review や Original Article が掲載されています。2022 年の Volume21 から 1 年 1 号の発刊とし、アクセプトされた論文は随時オンライン上で掲載されています。また 2002 年の創刊号から掲載されている全ての論文が PubMed 上で検索できるようになっています。

<https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/journals/3326/>

さらに 2022 年からは“Virtual Issues”を発行しています。これは注目のトピックに焦点を当て、既掲載論文をピックアップし再編した特集号となります。現在までに 19 の Virtual Issues が発行され、各 Virtual Issue には適宜新しい論文が追加されていきます。ホームページの“BROWSE”をクリックすると“Virtual Issues”があります。最新の知見を得るために是非ともご活用ください。

生殖補助医療の保険収載から 3 年以上が経過し、2021 年に初版が発行された生殖医療ガイドラインの改訂も間近に控えています。生殖医療の更なる発展のためには、より質の高い臨床エビデンスと新規検査・治療方法の開発に向けた研究成果を蓄積することが必要です。RMB 誌がこのような基礎・臨床研究の発表の場として国内外の研究者・臨床家に活用され、世界に誇れる生殖医療・医学の国際的英文雑誌として、さらに発展しますように、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2025 年 7 月吉日

日本生殖医学会編集担当理事

RMB 誌編集委員長

岩瀬 明